

製品名: EPAS-1 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab10504**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	110-120kDa

抗原情報

遺伝子名	EPAS1
別名	EPAS1; BHLHE73; HIF2A; MOP2; PASD2; Endothelial PAS domain-containing protein 1; EPAS-1; Basic-helix-loop-helix-PAS protein MOP2; Class E basic helix-loop-helix protein 73; bHLHe73;HIF-1-alpha-like factor; HLF; Hypoxia-inducible factor 2-alpha; HIF-2-alpha; HIF2-alpha; Member of PAS protein 2; PAS domain-containing protein 2
遺伝子 ID	2034.0
SwissProt ID	Q99814
免疫原	K385 の非アセチル化部位の周囲にあるヒト EPAS-1 由来の合成ペプチド。

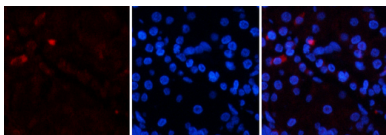
背景

内皮 PAS ドメインタンパク質 1 (EPAS1) ホモサピエンス この遺伝子は、酸素レベルの低下に伴って誘導される、酸素制御遺伝子の誘導に関与する転写因子をコードしています。コードされているタンパク質は、塩基性ヘリックス・ループ・ヘリックスドメインタンパク質二量体化ドメインと、酸素レベルに応答するシグナル伝達経路のタンパク質に見られるドメインを含んでいます。この遺伝子の変異は、家族性赤血球増多症 4 型 (ECYT4) と関連しています。[RefSeq 提供、2009 年 11 月]、疾患: EPAS1 の欠陥は、家族性赤血球増多症 4 型 (ECYT4) の原因です[MIM:611783]。ECYT4 は、血清赤血球量の増加、ヘモグロビン濃度およびヘマトクリット値の上昇、ならびに正常な血小板数および白血球数を特徴とする常染色体優性疾患です。機能:酸素調節遺伝子の誘導に関与する転写因子です。標的遺伝子プロモーターの低酸素応答エレメント (HRE) 内のコア DNA 配列 5'-[AG]CGTG-3' に結合します。血管内皮増殖因子 (VEGF) の発現を制御し、血管および肺の尿細管系の発達に関係していると考えられます。また、血液脳関門を生じる内皮の形成にも関与している可能性があります。Tie-2 チロシンキナーゼ発現の強力な活性化因子です。活性化には、CREBBP やおそらく EP300 などの転写コアクチベーターのリクルートメントが必要と思われる。酸化還元調節タンパク質 APEX との相互作用は CTAD を活性化すると考えられる。PTM: 常酸素状態において、HIF1AN によって Asn-847 が水酸化されるため、CREBBP および EP300 との相互作用が阻害され、転写活性化が阻害されると考えられる。PTM: 常酸素状態において、EGLN1/PHD1、EGLN2/PHD2、および/または EGLN3/PHD3 によって Pro-405 および Pro-531 が水酸化されると考えられる。水酸化されたプロリンは VHL との相互作用を促進し、急速なユビキチン化とそれに続くプロテアソーム分解を開始する。低酸素状態では、プロリン水酸化が損なわれ、ユビキチン化が減衰し、結果として安定化します。PTM:CTAD の複数の部位でリン酸化されています。PTM:鉄および 2-オキソグルタル酸依存性のアスパラギン 3 位水酸化は、HIF CTAD ドメイン内で (S) 立体特異的です。類似性:1 つの基本ヘリックス-ループ-ヘリックス (bHLH) ドメインを含みます。類似性:1 つの PAC (PAS 関連 C 末端) ドメインを含みます。類似性:2 つの PAS (PER-ARNT-SIM) ドメインを含みます。サブユニット:効率的な DNA 結合には、別の bHLH タンパク質との二量体形成が必要です。ARNT とヘテロ二量体を形成します。CREBBP と相互作用します。組織特異性:ほとんどの組織で発現し、胎盤、肺、心臓で最も高く発現します。内皮細胞に選択的に発現する。

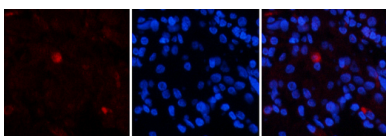
研究分野

癌の経路;腎細胞癌;

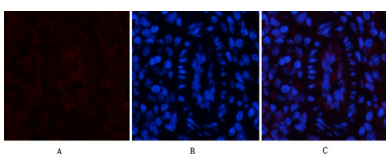
画像データ



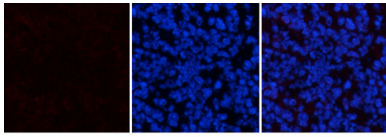
ヒト胃組織の免疫蛍光染色。1, EPAS-1 ポリクローナル抗体 (赤) を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2, Cy3 標識二次抗体を 1:300 に希釈 (室温、50 分)。3, 図 B: DAPI (青) 10 分。図 A: ターゲット。図 B: DAPI。図 C: A+B の合成。



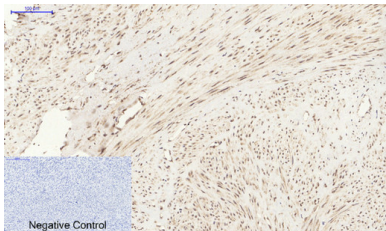
ヒト胃組織の免疫蛍光染色。1, EPAS-1 ポリクローナル抗体 (赤) を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2, Cy3 標識二次抗体を 1:300 に希釈 (室温、50 分)。3, 図 B: DAPI (青) 10 分。図 A: ターゲット。図 B: DAPI。図 C: A+B の合成。



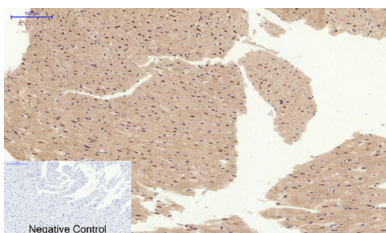
マウス脾臓組織の免疫蛍光染色。1, EPAS-1 ポリクローナル抗体 (赤) を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2, Cy3 標識二次抗体を 1:300 に希釈 (室温、50 分)。3, 図 B: DAPI (青) 10 分。図 A: ターゲット。図 B: DAPI。図 C: A+B のマージ。



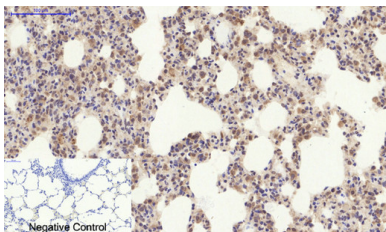
マウス脾臓組織の免疫蛍光染色。1, EPAS-1 ポリクローナル抗体 (赤) を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2, Cy3 標識二次抗体を 1:300 に希釈 (室温、50 分)。3, 図 B: DAPI (青) 10 分。図 A: ターゲット。図 B: DAPI。図 C: A+B のマージ。



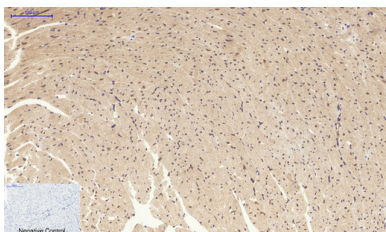
パラフィン包埋ヒト子宮組織の免疫組織化学染色。1. EPAS-1 ポリクローナル抗体を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2. クエン酸ナトリウム (pH 6.0) を用いて抗体賦活化 (>98°C、20 分) を行った。3. 二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30 分)。ネガティブコントロールとして二次抗体のみを用いた。



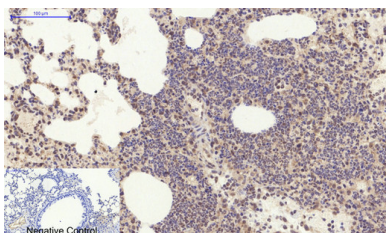
パラフィン包埋ラット心臓組織の免疫組織化学染色。1. EPAS-1 ポリクローナル抗体を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2. クエン酸ナトリウム (pH 6.0) を用いて抗体賦活化 (>98°C、20 分) を行った。3. 二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30 分)。ネガティブコントロールとして二次抗体のみを用いた。



パラフィン包埋ラット肺組織の免疫組織化学染色。1. EPAS-1 ポリクローナル抗体を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2. クエン酸ナトリウム (pH 6.0) を用いて抗体賦活化 (>98°C、20 分) を行った。3. 二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30 分)。ネガティブコントロールとして二次抗体のみを用いた。



パラフィン包埋マウス心臓組織の免疫組織化学染色。1. EPAS-1 ポリクローナル抗体を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2. クエン酸ナトリウム (pH 6.0) を用いて抗体賦活化 (>98°C、20 分) を行った。3. 二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30 分)。ネガティブコントロールとして二次抗体のみを用いた。



パラフィン包埋マウス肺組織の免疫組織化学染色。1. EPAS-1 ポリクローナル抗体を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2. クエン酸ナトリウム (pH 6.0) を用いて抗体賦活化 (>98°C、20 分) を行った。3. 二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30 分)。ネガティブコントロールとして二次抗体のみを用いた。